

特集 安城の遺跡

問い合わせ▶埋蔵文化財センター(☎<77>4490)

歴史を掘り起こす

安城の遺跡

平成19年度
の発掘調査

安城市では、250か所を超える遺跡が確認されています。その中から、平成19年度に調査したものの一部を紹介します。

■姫小川古墳(姫小川町)

碧海台地の東端、台地が半島状にせり出した場所に立地。その東側には沖積低地が広がって

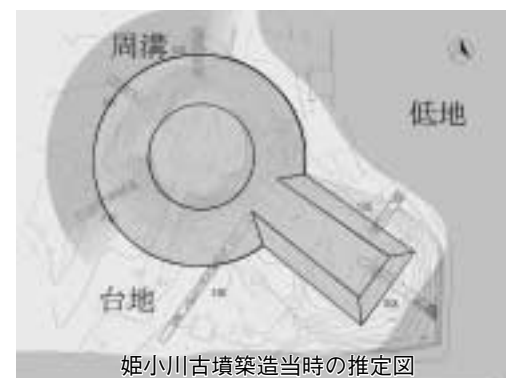
います。この古墳は、二子古墳とともに国指定史跡となっており、前方後円墳です。墳丘規模は66m前後で、市内の古墳としては二子古墳に次ぐ規模を誇っています。今回、古墳に関する基礎的な情報を得るために6か所に細長い調査区を設定して発掘を行いました。



埋められていた前方部



後円部西で見つかった周溝



姫小川古墳築造当時の推定図

調査の結果、古墳の西側(後円部)はかなり崩れており、古墳の裾はもう少し西側まであったこと、西側には古墳に沿って大きな溝が巡っていること、前方部一帯は戦後になって埋め立てられており、戦前の測量図通りに墳丘が残っていることなどがわかりました。また、鎌倉時代や戦国時代、江戸時代の掘り込みや盛り土層が確認され、古墳造営後も連綿と人々の営みが続いていることがわかってきました。今回の調査成果をもとに、将来的に古墳の整備に生かしていく予定です。

■堀内貝塚(堀内町)

調査地周辺は、東100mに縄文時代晩期を中心とする堀内貝塚の貝層と墓域、南西50mに堀内古墳、南西30mに室町時代の羽開道地下坑があり、堀内町の中でも特に遺跡の集中する地区です。



堀内貝塚調査区全景

調査の結果、調査区のほぼ全域に渡って戦国時代、近代の遺構が検出されました。特に調査区を東西方向に走る戦国時代の大溝(幅2.5m、深さ0.6m)から、大量の土器が出土しました。この溝は15m以上に渡って掘られていたようで、その屋敷地を区

画する溝であった可能性がります。また、調査区の中央から東にかけては、戦国時代、江戸前期の比較的規模の大きい土坑が4基確認されました。これらの土坑は素掘りの井戸跡の可能性もあります。



大量に出土した鍋釜類

今回の調査で特に注目されることは、大溝を中心に出土した戦国時代、江戸時代前期にかけての大量の遺物です。市域ではこれまでに同時期の遺物は出土しているものの、城址でない遺跡でこれほど大量の土器が出土するのは珍しいことです。特に大溝からは、煮炊きで使用する内耳鍋や羽付鍋などが重なるように集中して出土しています。遺跡の性格を考えるうえで重要であるばかりでなく、西三河の中世、近世の土器(鍋釜類)の移り変わりを考えるうえでも大変貴重な資料となることでしょう。



江戸時代の自然流路

■惣作遺跡(木戸町)

碧海台地の東端から東に堆積した沖積地の自然堤防上に立地。惣作遺跡の南西方向にあたる、鹿乗川対岸の台地上には奈良時代に創建されたと推測されている寺領廃寺跡が位置しています。



弥生時代の竪穴住居の一部

見つけた主な遺構には、弥生時代末、古墳時代及び平安時代の竪穴住居、堀立柱建物跡ないしは柵列跡と想定される柱穴や、大規模な旧河道跡や江戸時代の溝などがあります。

竪穴住居は重複して検出され、出土した高杯などの土器から弥生時代後期の住居であると考えられます。中央では比較的規模の大きな溝が3条見付かり、須恵器や灰釉陶器(平安時代の施釉陶器、寺領廃寺との関係をはかかわせる瓦などが出土しました。灰釉陶器には数点ですが底

部に墨で文字などが書かれた碗や皿があります。江戸時代ごろの自然流路や溝からは、弥生時代、江戸時代にかけての遺物が出土しました。

以上のことから、惣作遺跡では弥生時代後期、古墳時代にかけて、奈良時代、平安時代にかけて集落が営まれていたこと、江戸時代には自然流路が流れており、比較的大きな溝も掘削されていたことなどが明らかになりました。

遺跡の調査にご協力を！

遺跡はわたしたちの過去の歩みを記録しています。一度破壊してしまつと、その内容を明らかにすることは二度とできなくなつてしまいます。市では、開発でやむを得ず破壊されてしまつた遺跡について、事前に発掘調査を行っています。個人住宅の建て替え時の調査については費用はかかりませんので、気軽に相談ください。

また、発掘調査で出土した遺物は、埋蔵文化財センターに保管・展示しています。今回紹介した出土品の展示もありますのでぜひご覧ください。(市ホームページにも掲載しています)

